

大学受験 NOW



新毎日新聞

2022年 夏号

(令和4年)

発行所：大阪市北区梅田3丁目4番5号
〒530-8251 電話(06)6345-1551
毎日新聞大阪本社



兵庫医科大学

「波乱」こそ初志貫徹を 共通テスト難化で個別試験勝負



今春の大学入試で志願者が9年ぶりに増加した京大。京都市で、尾野翔太郎撮影

波乱は「3年目」も続くのか。大学受験界は9月から2023年度(23年4月)入学の総合型選抜入試が始まる。コロナ禍に制度改革など過去2年、大学入試は大きく揺れた。そこから見えてきたものは何か。今春の入試結果を振り返るとともに、今後の受験生の大学、学部・学科選びの道しるべを探った。

【飯山太郎】

今春の大学入試は「過去最低」が続いた。まず導入2年目の大学入試共通テストは、平均点が大幅にダウンする科目が相次いだ。大学入試センターの最終集計によると、数学Iや数学II・A、日本史B、化学、生物など7科目で、平均点が前年の大学入試センター試験時代も含め、過去最低を記録した。

また、東京大では合格者の平均点が全科目で、過去10年で最低となった。この点数は共通テストの成績も含まれている。駿台予備学校進学情報事業部の石原賢一部長は「共通テストが難化して平均点が下がり、個別試験勝負になりました。そして、難関大志望層が強気の志願を維持したことが目立ちました」。

過去最低続出も難関大志願増

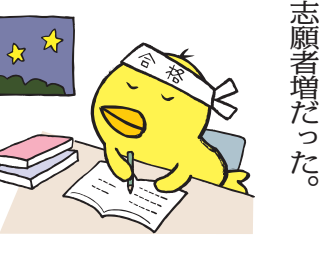
これが何を示すのか。合否の決定で、難関大は共通テストの成績が占める割合が低く、難関大から一般の大学までは、その割合が高い傾向にある。石原さんは「75〜80%のグループは平均点ダウンを受け、1ランク下の大学に出願した受験生が多かったと考えられます。実際に難関大レベルの大学は、志願者減が目立っています」と指摘する。

昨春まで志願者数が6年連続で国立大トップだった千葉大は、前年より約900人減で2位。大阪市立大と大阪府立大が統合した大阪公立大が代わって首位となったが、前年の両大学の志願者の合計と比べると、

「成功したのは平均点ダウンにも動じず、自分の立ち位置をしっかりと冷静に分析し、国立大の2次試験など個別試験まで諦めず、頑張り続けた受験生でした」。

では、志願動向はどうだったのか。駿台の石原さんが一つのデータを挙げる。

まず、大学を難易度別に、共通テストの得点率で65%未満、85%以上を5%刻みに六つに分ける。そして、各得点率で合格可能性が60%となる大学をグループ分けし、それぞれの志願者の増減を見る。すると、得点率の上位と下位の各グループの志願者数はほぼ前年並みだった。しかし、「75〜80%」は約10%の減少、一つの「70〜75%」は逆に8%の増加だった。

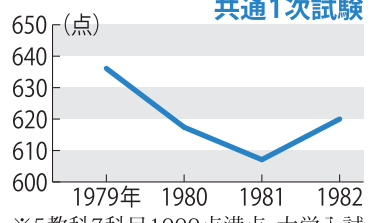


実施2年 傾向なおつかめず

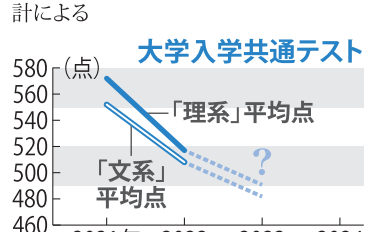
共通テストは現在、多くの私立大も利用する。平均点ダウンは、その入試にも影響を与えた。一つが難関私立大での志願者増だ。

今春は上智大、中央大、立大志望者の併願が増えた。立大志望者の併願が増えたので、首都圏や関西圏で難関や準難関の国立大学を狙っていた層は、自宅から通える「ARCH」

「共通試験」の初年度～4年目の平均点の推移 ※駿台予備学校調べ



大学入試センター試験 ※5教科7科目1000点満点、駿台とベネッセの「データネット実行委員会」の推計による



大学入試共通テスト ※5教科7科目900点満点、駿台とベネッセの「データネット実行委員会」の推計による

「明治大、青山学院大、立教大、中央大、法政大」や「関関同立」(関西大、関西学院大、同志社大、立命館大)を併願したため、と見られる。私立大の志願者総数は駿台の推計で約332万5000人。前年比14%減と戦後最大の減少幅だった昨春から、今春は0.1%の微減だった。

大学通信の井沢さんは「コロナ禍やウクライナ危機など、自らの意思ではなくともならない不安定要素とも対峙しなければなりません」と受験生の置かれた状況を心配する。その上で「学校現場や保護者など、大人の支援が必要なのは言うまでもありません」と付け加えた。

わたしの未来は、
わたしが見つけてあげる。

MUKOJO ACTION
2019-2039

日本の女子大を、更新しよう。

武庫女が さらに大きく 飛躍します

心理・社会福祉学部

心理学科 社会福祉学科

社会情報学部

社会情報学科
情報メディア専攻/情報サイエンス専攻

スポーツマネジメント学科

(健康・スポーツ科学部)

2023年4月開設予定(設置届出中*)

*記載の内容は予定のものであり、変更する可能性があります。

武庫川女子大学

〒663-8558 兵庫県西宮市池開町6-46

